



## 2 イベント分類の設定

- 機能情報の確認, 1 ページ
- 2 イベント分類について, 1 ページ
- 2 イベント分類の設定, 2 ページ
- 例 : 2 イベント分類の設定, 3 ページ

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、使用するプラットフォームおよびソフトウェア リリースの Bug Search Tool およびリリース ノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## 2 イベント分類について

クラス 4 デバイスが検出されると、IOS は、CDP または LLDP のネゴシエーションを行うことなく 30W を割り当てます。これは、リンクがアップする前であっても、クラス 4 の電源デバイスは 30W を得ることを意味します。

また、ハードウェア レベルで、PSE は 2 イベント分類を行い、これにより、クラス 4 PD はハードウェアから 30W を供給する PSE の能力を検出し、それ自体を登録することができます。また、CDP/LLDP パケット交換を待つことなく最大 PoE+ レベルまで移動できます。

2 イベントがポートで有効になったら、ポートの遮断または開放を手動で行うか、または PD を再度接続して IEEE 検出を再度開始する必要があります。2 イベント分類がポートで有効になっている場合、クラス 4 デバイスの電力バジェット割り当ては 30W です。その他の場合は 15.4W です。

## 2 イベント分類の設定

2 イベント分類についてスイッチを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface *interface-id***
4. **power inline port 2-event**
5. **end**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : Switch> <b>enable</b>	特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例 : Switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>interface <i>interface-id</i></b>  例 : Switch(config)# <b>interface gigabitethernet2/0/1</b>	設定する物理ポートを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b>power inline port 2-event</b>  例 : Switch(config-if)# <b>power inline port 2-event</b>	スイッチで 2 イベント分類を設定します。
ステップ 5	<b>end</b>  例 : Switch(config-if)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

### 関連トピック

[例 : 2 イベント分類の設定, \(3 ページ\)](#)

## 例 : 2 イベント分類の設定

次に、2 イベント分類を設定する例を示します。

```
Switch> enable
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# power inline port 2-event
Switch(config-if)# end
```

### 関連トピック

[2 イベント分類の設定, \(2 ページ\)](#)

例 : 2 イベント分類の設定